2015 年 5 月 23 日

モーニング･コーヒーの集い

途中出席者を含め 7 名の参加でした。寒冷時の日中の大きな寒暖差によるアレルギーに苦しめられているため、冬には沖縄で過ごしているメンバーが久しぶりに顔を見せました。

･中国の御用学者　―　最近アメリカの日本史の研究者を名乗る無名の学者たちが安倍総理を非難する声明を出していることを、日本の左傾マスコミが歓びを持ってその記事を大書している。

何も推測できないそれらの購読者は、記事の字面通り解釈して安倍総理を修正主義者と非難し始めるかも知れない。

中国から金をばらまかれて中国のお気に入りの抗議運動をしているだけだと十分推測できる。その証拠に中国の金のばらまきが欧米に広まって、 450 人の学者と称する連中が抗議していると書いている。こういう連中に対しては、非常に適切な日本語表現がある。”捨て置け”。反応する必要更にないとヒゲ･じーちゃんの意見を開陳しておいた。

･ MRJ と HONDA　JET　―　ガイヤの夜明けとか言うテレビ番組で HONDA　JET の開発過程を紹介していた。その開発担当者の説明を聞いていたが、多分に三菱重工を意識しているのではないかと思われる部分があった。

その一点は、日本の航空機メーカーは世界大手メーカーの下請的存在だが、そうにはなりたくない。もう一点は、論文を多く世界に対して発信して、かつて日本で試作された飛鳥と同じ翼上にエンジンを取り付けた。飛鳥は失敗したが、 HONDA　JET では成功したという内容だった。

戦後日本で開発された航空機に YS11 がある。聞くところによれば、パイロットからは非常に高いその操縦性と安定性で大きな評価を受けたようだ。しかし、生産は挫折した。その原因は、優秀な機体を製作したものの、整備体制が整っていなかった。本当なのかどうか分からないが、 YS11 を売り込みに言ったとき商談相手からマニュアル（取扱説明書）はありますかと問われ、対応していた日本の担当者が”えっ、マニュアル”と言って言葉を飲んだというようなことを読んだ覚えがある。

アメリカの航空機会社では、設計とサービス部（販売、取扱説明書の作成担当）の比率は五分五分なのに対して、日本では 98 対 2 の比率で完全に設計部が大手を振って闊歩していて、設計部からサービス部は無視にも等しい存在。

この違いが、YS11 の生産が頓挫した原因だと推察される。

ホンダが、このミスの轍を踏みはしないかと懸念される。 HONDA　JET は小型機。アメリカを例に取れば、全米の小さな飛行場にまで整備の基地が必要となるが、その整備の受け入れ体制は万端怠りなく完成されているのだろうか。翼上エンジンともなれば、在来の整備設備、工具では対応できないのではないか。翼下エンジンならば、つり下げて台座に据えるだけ。翼上エンジンの場合は、エンジンを一旦つり上げてから作業場に降ろさなければならないように想像しているのだが。

HONDA JET は、すべてホンダ自社製造だということを力説していた。それは、現在の航空機業界の動きに逆行しているような気がしてならない。

世界の航空機メーカーは、 1 社だけで航空機を製作してはいない。カナダの航空機会社のボンバルディアの CRJ には三菱重工が、胴体後部とエンジンパイロンの設計と製造を担当している。いろいろな国の航空機関係者が、CRJ の組み立てに協力している。

ボーイング 787 民間輸送機(通称ドリームライナー)は、アメリカ・日本の国際共同開発の機体。日本の機体構造のシェアは過去最高の約 35%で、三菱重工は旅客機では初めてとなる本格的な複合材主翼の製造を担当している。

三菱が目下開発中の MRJ も世界からいろいろな部材を供給してもらっている。エンジンはプラット・アンド・ホイットニー社製のもの。

このように世界の航空機産業は、分業化を進めコストダウンを計っているように思われる。航空機 1 機丸ごと開発会社がすべてを賄うとしたら、相当なコスト高になるのではないかと推察される。

・公立学校にも中高一貫校　―　お孫さんが京都在住のメンバーから京都に公立の中高一貫校があるという情報を提供してくれた。お孫さんはこの学校で学んでいるという。

私立の中高一貫校は、全寮制のところが多いと聞いているが、京都の公立中高一貫校は全寮制ではないようだ。

一般の教育費は普通の公立学校とあまり差はないが、教材・参考書の費用がかなり高いという。

最近非行防止、道徳教育、エリート教育の目的で、私立の中高一貫校が注目され、高い評価を受けている。

少子化傾向の勢いに歯止めがかからず、特に昔は落ちこぼれを一手に救っていた私立高校は、存続の危機に見舞われている。生き残りをかけた凄まじい競争が起きている。

そのため、独自の特徴を打ち立てて親子の注目を集める努力がなされている。そのため、昔には今で言う偏差値が相当低くても入学できた高校に 1 クラスか 2 クラス特別の教室を用意し、頭のいい子を努力して集め英才教育を施している。そういう学校の努力が実を結び、受験校としての面目を一新した学校もある。

このような最近の学校のあり方に公立学校も安穏としていられない気持ちに追い立てられているのだろうか、京都に公立の中高一貫校ができたのは。

この話の終わりにメンバーが抱いた印象は、昔の学校の評価は通用しないということであった。また、ヒゲ・じーちゃんが感じた個人的な感想は、激しい競争は進歩の起爆剤になるということだ。

・共産党の天皇制に関する姿勢　―　北海道のある古書店からときどきメールをもらっている。いろいろな古書を紹介してくれるので便利に使わせてもらっている。

明治、大正、戦前に発行された大判の辞書や歴史書を時々購入している。最近興味を引いて買った古書に共産党が戦後まもなく発行した天皇制にかんする共産党の考え方を載せている小冊子がある。

どういう内容になっているかは、ヒゲ・じーちゃんのホームページの「コラム」で紹介しているので、そちらを参照して欲しい。共産党も”票取り”のためなら一時的に天皇制は今は合法的だと”豹変”して、国民に目眩ませを噛ませる。